

別 紙

第59回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第2分科会	演題番号	207
題 名	浜松市の周産期における自殺対策の取組について ～妊産婦のメンタルヘルスケアに関する実態調査からみえてきたもの～		
所 属	浜松市精神保健福祉センター		
氏 名	○生田望 中間初妃 鋏竹美保 松尾詩子 池田千穂 二宮貴至		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>本市では、平成22年度から自殺未遂者支援事業の一環として、救急医療機関、精神科医療機関、行政を中心とした救急現場での体制整備に取り組んできたが、そこに産科医療機関を加え周産期メンタルヘルスにも対応した更なる自殺対策連携の拡大を図り、より効果的な体制構築を目指すこととした。</p> <p>この取組の端緒として、行政（母子保健・児童福祉領域）や市内の産科医療機関、精神科医療機関、助産所に実施したアンケート調査で明らかになった本市における妊産婦のメンタルヘルスケアに関する実態と今後の周産期メンタルヘルスにも対応できる仕組みづくりについて報告する。</p> <p>調査結果からは、行政保健師や開業助産師、産科医療従事者の多くは、メンタル不調の妊産婦に対して負担感を感じていることが明らかとなった。一方、精神科医療機関が紹介された妊産婦患者の対応で苦慮した点として、服薬治療に同意がなく治療困難だったことや患者の症状が適切にアセスメントされていないこと等があげられた。また、周産期メンタルヘルス支援体制として、「行政保健師との適切な情報共有」や「関係機関との顔のみえる関係づくり」、「窓口の明確化」などが求められていることが分かった。</p> <p>今後の取組としては、周産期メンタルヘルスに適切に関わる人材育成と包括的な支援システムの構築が重要となる。特に、地域レベルでの身近なメンタルヘルスケアの実践的な取組への支援を強化していきたい。</p>		